

研修機関	いしかわ動物園
研修期間	平成18年9月20日～10月19日
所属・氏名	県立小松明峰高等学校 出野 茂

I 研修目的

- ・学校現場と異なる職業を経験することで、社会的視野を広げ、協調性を高め、柔軟にまた多方面から、ものを見たり考えたりする力を養う。
- ・「動物園に求められているもの」の中で「学校に求められているもの」に共通するものを模索し、動物園でのそれらに対する対応を吸収する。
- ・動物の健康管理・安全管理の方法を学ぶ。

II 研修内容

1 鳥班

- ①鳥小屋、小鳥ケージ、フライングケージの清掃、えさ設置補助
- ②標本、なめし皮、ホルマリンづけ見学
- ③動物病院保護棟補修補助

2 動物学習センター

- ①ウサギのタッチング補助
- ②ふれあいまつり用資料展示準備
- ③フォトコンテスト準備、表彰式補助
- ④動物学習センター開館、閉館作業
- ⑤卵の標本づくり
- ⑥親と子の動物園探検補助
- ⑦天気、百葉箱の記録

3 ふれあいひろば

- ①ウサギ、ミニブタ、馬、羊の飼育業務
- ②プレーリードッグ、スリカータ、カピバラの飼育業務
- ③ふれあいひろばウサギのタッチング補助
- ④ペンギン、カピバラのお食事ガイド見学
- ⑤堆肥舎見学、堆肥舎への生ゴミ運搬業務

4 水棲館

- ①アシカ、ゴマフアザラシの飼育業務
- ②バイカルアザラシの飼育業務補助
- ③アシカ、アザラシのお食事ガイド見学、お食事ガイド補助
- ④水棲館施設見学
- ⑤プールの水温、PH、塩素濃度調査、水の使用量記録

5 動物病院

- ①ニホンカモシカ解剖見学、解剖補助
- ②入院動物の寝小屋清掃
- ③保護動物の飼育業務
- ④動物園内見学

Ⅲ 研修成果

・社会的視野の広がり

今回の研修では、動物園という場を通して、様々な事柄を学ばせてもらいました。多くの方々から動物に対する考え方や接し方、また、動物園を取り巻く環境やその中にある矛盾点など、多くの言葉を頂き、学校現場に通じる問題点を気付かされました。例えば、いろいろなことが重なり、作業をこなしていくだけで精一杯で十分に動物の観察ができないときがあるそうです。これは学校現場においても同様で、多忙化のために、生徒との話し合いの時間が取れなかったり、生徒の様子をしっかりと観察できなかつたりする 때가あつたりします。動物園では飼育作業の効率化を十分に図っていてこの状況ですが、学校では仕事の効率化にまだまだ取り組めるように思いました。

・協調性

動物の飼育業務は、決して一人では出来ません。チームを組みお互いの協力、綿密な連絡の下、行われていくものです。飼育日誌や会話の中には動物たちの事でいっぱいでした。仕事と言えばそれまでですが、その中には動物たちへの大きな愛が感じられました。私たちも教員間で一致団結し、生徒へ愛情を持って精一杯接していかなければならないと感じました。

・ものの見方、考え方

アシカの調教を見学したときです。飼育員の方から「調教が上手くできなかつたら、自分の教え方のどこがまずかつたのだろうと考える。次のときは、思いつく限りの工夫をする。」「いきなり10まではできない。できるところまで分解して分解して少しずつできるようにする。できたときは思いっきり褒めてあげます。」と教えてもらいました。教育においても同じ事が言えると思います。生徒の教科に対する理解度を常に計りながら、授業を創意工夫しわかりやすく、時には細かく分解しながら教える。そして出来たときには大いに評価するような授業を心がけたいと思いました。また、飼育員の方々は動物をよく観察し、その特徴、性格を熟知されていました。「あの子（飼育している動物のこと）は～だから・・・」という言葉をよく耳にしました。私たちも生徒一人ひとりをよく知ろうとする態度を養っていく事を心がけなければならぬと感じました。

教える側から教わる側へと立場を変えた一ヶ月間でした。動物園は大変忙しく、その中で時間を割いて教えて頂き、ご自分で作業された方が早く綺麗に出来たろうに、優しく粘り強くご指導して頂いて、大変心苦しく、有り難く思いました。教わる側の気持ちもわかつたような気がしました。作業が上手く行き褒められたときは、やり甲斐も感じましたし誇らしい気持ちになりました。この経験は生徒への指導方法や接する態度に役立つと思います。また、言葉での説明のあと、実際に手本を見せてもらうことが、大変わかりやすいことに気がつきました。生徒への教科指導において例をふんだんに使つたり、生活指導では自分自身がお手本となるようにしていかなければならないと思いました。

・「動物園に求められているもの」の中で「学校に求められているもの」に共通するもの

動物園に来られるお客様方は、動物園に「学び」や「癒し」を求めています。そのニーズに応えるために、動物園では「お食事ガイド」、「動物とのふれあい」など直接動物に係わる企画や、「動物園探検」などの様々なレクチャーを企画し、実行されていきました。飼育の合間を縫ったこれらの企画は、時間に追われる大変な作業ですが、飼育作業の効率化を工夫し黙々と取り組まれている飼育員の方々の姿勢には、頭が下がる思いがしました。「開かれた学校」作りが言われる学校現場においても、保護者や地域の方々の理解や協力が必要です。保護者や地域の方々が学校に求めているものを把握し、より良い学校運営を模索し、教育のプロとしての教員の資質向上を目指しながら、学校内外にその成果を発信して、理解を深め協力していただける環境作りに取り組む必要性を痛感しました。

・動物の健康管理

動物には言葉は通じませんし、話すことが出来ません。ですから、異常を発見するためには注意深く丁寧に観察するしかありません。また、多くの飼育員と獣医の先生方との密な連携が必要となります。動物が住む環境を整える、清潔に保つということが重要であると気付かされました。

IV 今後の課題

学校に戻り先ずしたことは、生徒たちに動物園の話をすることでした。概ね楽しそうに聞いてくれています。まだ終わりまで話せていません。それほどたくさんの事を見聞き体験し、考えた充実した一ヶ月でした。これからは、これらの貴重な体験を多くの生徒たちに語ることで、生徒たちに還元していきたいと思えます。また、教員という仕事に対する考え方が少し変わったような気がします。文章では上手く言い表せませんが、それらのことも生徒たちに伝わればと思っています。

今回の研修で動物園に対する見方が変わりました。やはり、経験することでその職業の話が生徒に出来るのだと実感しました。しかし、世の中すべての仕事が経験できるわけではありません。ならば私たち教員は生徒たちに出来るだけ客観的で正確な話が出るよう正しい情報を仕入れる努力をしていかなければならないと思いました。

最後になりましたが、この研修を行うにあたり、快く受け入れて下さり、丁寧に指導して下さったいしかわ動物園の職員の皆様、本当にありがとうございました。研修中においては私の腰痛のため研修内容を変更して下さり、多くの方々にご迷惑をおかけしたことを大変申し訳なく思い、いろいろご配慮して頂いたことに感謝申し上げます。また、この研修の機会を与えて頂いた石川県教育委員会、石川県立小松明峰高等学校の皆様には感謝いたします。